

教えて!

市立病院



【今月のドクター】

救急科部長兼
脳神経外科長
川瀬 誠 医師

心原性脳塞栓症は、脳の血管が詰まる脳梗塞の一つです。脳梗塞の中でも、太い血管が突然詰まってしまう、バタンと倒れることから、ノックアウト型脳梗塞といわれます。心臓の中に血の塊ができ、何らかの拍子で剥がれ、血流に乗って脳の血管に詰まってしまう。悪いのは心臓で、脳

〈第 109 回〉

しんげんせいのうそくせんしょう

心原性脳塞栓症について

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

は被害者なのです。

心臓に血の塊ができる主な原因は、心房細動という不整脈です。心房と心室がリズムカルに動かないため、心房に血液の淀みができ、血が固まってしまうのです。心房細動の人で、心不全、高血圧、年齢 75 歳以上、糖尿病、脳梗塞の既往のある人は、血の塊ができやすいので、予防的なお薬の内服が推奨されています。

その予防のお薬が抗凝固剤です。以前からあるワーファリンの他に直接経口抗凝固剤 (DOAC) があります。DOAC はワーファリンと比べ、出血合併症が少ない、納豆

などの食物や他のお薬との相互作用が少ないなどの利点がありますが、効果が比較的すぐ切れるので、飲み忘れないことが肝要です。

予防効果の高い良いお薬なのですが、血が止まりづらくなるので、怪我などには注意が必要です。また少量の消化管出血が続き、ゆっくりと貧血が進行することもあるので、定期的な貧血や便潜血のチェックをお勧めします。頭蓋内出血などの生命に関わる大出血の場合は、抗凝固剤の効果を打ち消すお薬もありますので、飲んでいられるお薬がわかる情報 (お薬手帳など) を携帯いただくと幸いです。